

2004年度薬局スタッフは、薬剤師4名、事務員1名の計5名であった。

2004年度の薬局業務は、①外来及び入院患者の調剤（注射支給業務含む）を中心とした調剤業務、②医薬品の購入・在庫調整などの在庫管理業務、③入院患者の服薬指導を中心とした病棟業務（薬剤管理指導業務）に分類できる。これらの業務を中心に以下の通り報告する。

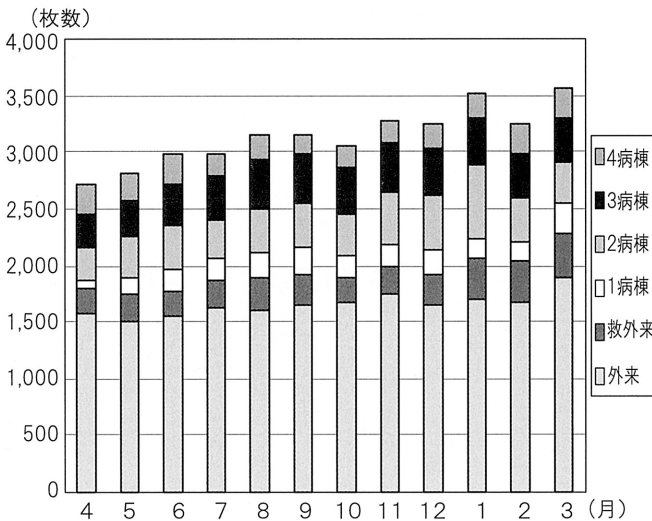
【調剤業務】

済生会みすみ病院開院実質2年目、病棟フルオープン、外来患者の増加に伴い、図1に示すとおり処方箋枚数も増加傾向を示した。1年を通して、昨年度最高月を上回る処方箋枚数であり、調剤に費やす時間も増加した。その中で、医師、看護師と協力し、入院患者における「定期処方」を確立させた。その結果、処方漏れの防止や、集中的な調剤による業務効率化を行った。また、看護師の協力のもと、2004年度下半期より「簡易懸濁法」の検討を行い、「錠剤粉碎化」から機能性・効率性の高い「簡易懸濁法」へとシフトすることができ、これまで粉碎化に費やしていた業務量も飛躍的に軽減された。

外来患者の待ち時間についても、2003年度同様、ほとんど待ち時間のない状況ではあったが、さらに接遇を向上させるべく患者との「対話」を心がけた。

注射支給に関しては、バンコマイシン投与全患者のTDM（薬物血中濃度モニタリング）を実施。また、配合変化表を看護師へ提供するなど、注射薬の適正使用に努めた。

図1 処方箋枚数推移



【医薬品在庫管理業務】

2003年に引き続き、済生会熊本病院との連携をとり、共同購入によるコスト削減を行った。原則週2回の発注管理において、在庫切れを最小限にし、かつデッドストック防止に努

めた。また、本在庫管理を利用して、特に注射薬使用量について医事課とのコストチェックを行い、適正な医療費請求に貢献できたと考える。

各病棟・部署毎の棚卸しを必要に応じて実施。リスクマネジメントやコスト意識の観点を重視し、適宜、定数配置棚の整備を行った。

薬事委員会にも関与し、在庫管理システムから採用薬・削除薬の審議資料を提供。新規採用に関しては原則一増一減を心がけた。

【病棟業務】

2003度より開始の薬剤管理指導業務については、2004年7月の回復期リハビリテーション病棟(40床)開設に伴い、2004年7月より回復期リハビリ病棟を除く1~3病棟(全100床)の患者を対象に行い、病棟薬剤師(兼務)3名を配置し病棟業務に携わった。なお、必要に応じて回復期リハビリ病棟の患者へも服薬指導を行った。請求件数としては、2004年度の目標であった月100件を達成することができ、病棟における薬剤の適正使用に少なからず貢献できたと考える。その他、糖尿病教育入院患者向けに、薬剤に関する講義(週1回1時間程度)を担当。今後も、患者への安全な薬剤提供を第一に病棟業務に取り組んでいきたい。

【その他】

薬剤師の能力向上のため、2003年度に引き続き部内担当持ち回りで、定期的に勉強会を開催。月4回(朝勉強会、夕方勉強会 各2回)を目標に、2004年度も年間30回を超える勉強会を実施した。また、県病院薬剤師会NST認定試験に向けた勉強会も取り入れ、4名全員合格することができた。

DIニュース発行など、医薬品の適正使用の為の情報提供を適宜行った。

最後に、2004年度も少人数スタッフの為、多岐に渡る業務への関わり等、苦勞した面も多々あったが、業務改善への取り組みやすさ等、少人数ゆえの良さも表れた1年でもあった。実質3年目となる2005年度も、薬局及び病院がさらに飛躍できるよう、スタッフ一丸となって新たな目標に取り組んでいきたい。